



中野祇園祭

戦国時代から続く伝統の中野祇園祭が、7月18・19日に市街地で開催されました。

初日は、川崎踊りに屋台、大獅子やみこしのほか、3年ぶりに披露された黒姫物語朗読劇などの出し物があり、市街地は大いに賑わいました。翌日は、伝統の馬乗り行事が行われ、凛々しい表情で馬にまたがる若殿様たちが市街地を巡行しました。

中野祇園祭の起源

永正7年（1510）、高梨政盛が越後国内乱に守護代・長尾為景に味方して出陣し、長森原（新潟県南魚沼市）にて関東管領・上杉顕定を打ち取り大勝しました。中野に凱旋した政盛がこの戦勝を記念して、勝どきを上げて祝った場所である大宝宮の祭神・牛頭天王を勧請し、天王祭りを行うようになったのが中野の祇園祭の始まりだと伝えられています。

写真解説

①四ヶ町代表の小学生が若殿様に扮して行われた馬乗り行事。②東町の天神輿（市有形文化財）。③黒姫物語朗読劇。④中町子供みこし。⑤松川の川崎踊り（市指定無形民俗文化財）。



竹田 晋 さん
西町祭祀団
団長

西町では、大獅子のほか、おはやし子供屋台と子供みこしが参加しました。

大獅子は2週間かけて補修し、毎年表情を変えています。今年は白い歯が特徴の迫力あるものを仕上げました。街の中を元気よく巡行する大獅子の様子を、一人でも多くの人に見ていただければと思います、毎年祇園祭を迎えています。



金井 保 さん
松川川崎踊り保存会
会長

松川の川崎踊りは、江戸時代に当地区の人が伊勢参りの折に伊勢音頭を見物し、その優雅さに心を打たれ、故郷に持ち帰り広めたものなどといわれています。踊りは仮装豊年踊りで、テンポがゆるやかなのが特徴です。数年前までは区の盆踊りでも踊っていたのですが、今は祇園祭が貴重な披露の場となっています。



7



6

写真解説

⑥中町みこし。⑦組曲・黒姫物語コンサート。⑧西町子供みこし。⑨松川子供みこし。⑩威勢よく回転する東町たるみこし。⑪西町おはやし子供屋台。⑫西町大獅子。⑬松川の川崎踊り（市指定無形民俗文化財）。⑭東町子供みこし。⑮馬乗り行事。



10



8



11



9



15



13



12



14



鈴木 賢一 さん
東青会
会長

東青会は、東町の若者で組織する、主にお祭りの手伝いをする団体です。東町では、東青会の「たるみこし」のほか、天王神輿と子供みこしが街中を練り歩きました。

これからの祇園祭は、担ぎ手などとして参加する人だけでなく、出し物を見に街中に出てきてくれる人がもっと増えればいいと思います。

3年に一度、黒姫物語の朗読劇を行っています。主に中町や金融機関の方に出演してもらっていますが、今年は初の試みとして第48代ミス志賀高原クイーンの畠山望美さんに黒姫様役をお願いしました。北信濃に古くから語り継がれてきた伝説を、祇園祭の場で多くの人に知っていただければと思っています。



東 英司 さん
黒姫物語実行委員会
委員長